

令和 7 年 8 月 18 日

東員町議会予算決算常任委員会

委員長 大谷 勝治 様

東員町議会予算決算常任委員会
委員 広田 久男

研修報告書

研修期間	令和 7 年 8 月 6 日 (水)
研修（視察）先	いなべ市議会 委員会室
目的（テーマ等）	議会における施策評価・事務事業評価について
参加議員名 (複数の場合)	東員町議会 議員全員 (14 名)
資料添付の有無	● 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

(字体は「BIZ UDP ゴシック」に変更しています。ユニバーサルデザインフォント、誰にも読みやすい字体)

1. 観察研修の目的

本町議会は「議会が行う事務事業評価」の目的・意義、実施方法などの議員間の合意形成がとれず、R7 年度の「議会が行う事務事業評価」は中断し、見直しと合意形成をはかることになり、いなべ市議会では「事務事業評価」をどのように行っているのか観察研修に伺った。

2. 所感・成果

(1) いなべ市議会では、5～8 月をかけて分科会ごとに評価対象事業の抽出から調査研究、評価シートまとめを行い、9 月には予算決算委員会で評価結果および提言書をとりまとめ、委員会決定している。

9 月定例会の決算審議に間に合うスケジュールで事務事業評価を行い、決算認定において実施した事務事業評価は付帯決議として執行側に提出している。

「事務事業評価」の流れ、提言のやり方とも申し分なく、参考になった。

(2) 決算審査とは、議会が可決した予算(および事業)が、適正かつ有効に執行されたかを評価することである。

重要なことは、正しい決算審査を行うために「執行部が行った事務事業評価」を議会独自で評価・照合し、相違点や成果が出ていない点については修正や改善を提言することである。いなべ市議会では執行部ヒヤリング以外に市民ヒヤリングや現地調査などを実施しており、分科会評価の中身は濃いと思った。

(3) いなべ市議会における事務事業評価は、「事務事業」単位の評価ではなく、総合計画の「施策」単位で評価している。「施策(基本事業)」は分科会ごとに 2～3 を抽出する。

この評価方法も有りとは思うが、一方で、評価する事務事業数は増えるはずなので、「事務事業」単位で実施するやり方に比べ、評価、調査に係る負担は相当増えるものと思われる。

行政の監視につながる「事務事業の評価」は議会の仕事であり、多大な負担をかけて実施しているいなべ市議会には感心するばかりである。

以上